見て、触れて、学べるトリックアート美術館

日本発祥の参加型・体験型アートである〝トリックアート〟。平面の絵が飛び出したり、見る角度により違う雰囲気の絵に見えたりと錯覚を体験できるのはもちろん、作品と写真を撮ることで生徒の自由な発想を引き出す効果もあり、「楽しみながら美術や心理学について学習できる」と中学・高校の修学旅行では注目のスポットだ。中心施設である東京都お台場の施設がこの4月に拡張してリニューアルオープンする。また昨年は「航海と冒険」をテーマにした新しい美術館が神奈川県横浜市のみなとみらい地区にオープンしている。

東京トリックアート迷宮館　展示がスケールアップ

東京・お台場にある「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートや人気作を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポット、お台場の中心（デックス東京ビーチ）にあり、多くの一般客や修学旅行客でにぎわっている。

今年4月7日、美術館は移設、リニューアルオープンする。場所は同じデックス東京ビーチ4階の「アイランドモール」から「シーサイドモール」（お台場一丁目商店街）へ。面積が99坪から113坪へと拡大するほか、展示作品数が45作品から54作品へとスケールアップする。

テーマである「江戸」はそのままに、「華やかな江戸の彩」をコンセプトにした鮮やかな色調の館内に生まれ変わる。

入り口の「江戸エリア」は、にぎやかな江戸の町をイメージ。花魁（おいらん）道中やおみこしなどの色彩豊かな作品をそろえるほか、相撲部屋、大八車といった親しみやすいモチーフの作品も多数配置する。

「愉快な忍者とお化けエリア」では、忍者や日本のお化けたちが来場者を迎える。館内には隠し扉など、さまざまなトリックも仕掛けられている。

「トリックアート名作ギャラリー」は、過去の名作から最新作まで、人気作品を集めて展示。

「脳トレコーナー」には、クイズ作品や、人気の隠し絵を展示しており、遊ぶ感覚で錯覚の不思議を体験できる。

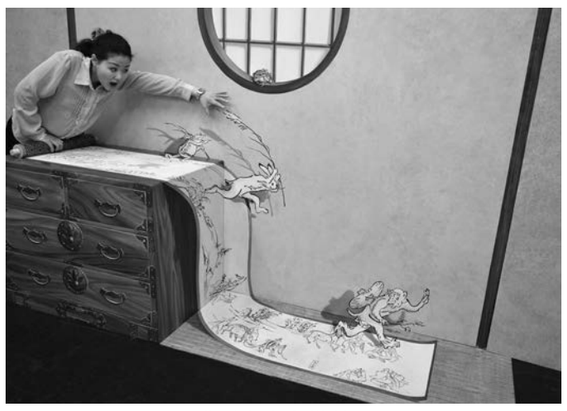
館内の作品はすべて手書きで描かれており、見て楽しむだけでなく、美術の学習素材としても利用できると高い評価を受けている。絵画の技術を学ぶだけでなく、自らの想像力を駆使してポーズを取り、写真作品を作れることも魅力の一つだ。

リニューアルにより、作品のほとんどが新作に入れ変わったことで、より新しい発見や楽しみを見つけ出せるという。情感豊かな子供たちの学習の場と記念撮影のスポットとして、さらに人気の施設になることだろう。

▽東京トリックアート迷宮館は、東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチシーサイドモール4階。☎03（3599）5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人千円、中学生以下600円。

おみこしわっしょい

背が高いのはどっち?


跳び出す鳥獣戯画

横浜トリックアートクルーズ　航海と冒険テーマに「みなとみらい」にオープン

「横浜トリックアートクルーズ」が昨年9月13日、横浜市のみなとみらい地区にオープンした。栃木県で「那須とりっくあーとぴあ」を運営するエス・デーが手掛ける、首都圏では東京・お台場に続く2軒目の美術館。港町横浜にちなみ、海の航海をコンセプトに設定。海の生きものをメインで構成。それぞれ錯覚の不思議な世界を楽しめる。サメに食べられそうになったり、身長が変わって見えたりするなど、アユニークな場面の写真を撮れる。作品は撮影のほか自由に触れることができるのも魅力だ。

赤レンガ倉庫や中華街、カップヌードルミュージアムなどと合わせて、横浜・みなとみらい地区の修旅自由行動に適した見学地といえる。

エス・デーはトリックアートの創始者、故剣重和宗氏の遺志を受け継ぎ、「多くの人々に芸術への関心を持ってもらい、豊かな心を育成する」ことを社是に、展示会の開催など国内外で活動を続けている。

▽横浜トリックアートクルーズは、神奈川県横浜市西区みなとみらい2の2の1、横浜ランドマークプラザ4階。☎045（264）9240。不定休で、午前11時から午後8時まで営業。入場料大人700円、中学生以下500円。

館内は「出航ゾーン」「冒険ゾーン」「奇妙な船底ゾーン」「トレジャーゾーン」の四つのゾーンに25作品を展示している。

京都　東映太秦映画村

見る・学ぶ・作る・参加する　体験学習プログラムが人気

東映太秦映画村（京都市右京区）では、修学旅行生に体験学習プログラムが人気。体験学習は修学旅行に必須のメニューとなっており、映画村では、「見る・学ぶ・作る・参加する」をテーマに、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験などがある。

班別研修用には、少人数用のメニューとして、映画村ならではの「お手軽時代劇扮装」がある。メイク、かつらを省いて着物の着付けのみのお手軽プラン。短時間で変身し、映画村の江戸の町を散策できる。

村内もリニューアルで新アトラクションが次々と登場している。時代劇や忍者をテーマにしたものが充実した。

3月18日に新登場したアトラクション「刀でGO!!」は、刀を持って挑戦するアスレチック。「丸太橋わたり」「鳴子くぐり」「床下ひそみ」「大屋根くだり」などの忍者修行が体験できる。随所に現れる木の人形を倒し、最後は四方から舞い降りる無数のシャボン玉を斬る。バーチャルではなく実際に的に刀を当てながら進むので、今までにない充実感と爽快感が味わえる。

「レーザーミッション　脱出の城」は、武将・織田信長が支配する架空の魔城から八つの罠を突破して脱出する体験型アトラクション。城の中は一本橋やスライダーなどのアスレチック、プロジェクションマッピングで演出される不思議な空間などの仕掛けがある。

「立体迷路　忍者の砦」は、高さ10㍍、3階建て240ブロックの屋内型立体迷路で日本初登場。屋内の特性を生かし、迷路の中には岩落とし、つり天井など忍者の仕掛けたギミックやアスレチックが楽しめる。

「からくり忍者屋敷」は、「どんでん返し」や「隠し通路」など、たくさんのからくりを利用して忍者屋敷の出口を目指す。

期間限定のイベントもシーズンごとに開催。4月9日までは「映画村さくらまつり」を開催。京都の食材を使用したグルメイベント「京都めし」をはじめ、桜にちなんだ「桜おいらん道中」や新選組が大立ち回りを演じる「チャンバラ桜の陣」などのイベントが盛りだくさん。村内に咲く桜の下、花見も楽しめる。

パンフレットの郵送、申し込みなど体験学習に関する問い合わせは東映太秦映画村（☎075・864・7716）まで。

お手軽時代劇扮装

刀でGO!!

映画村さくらまつり

九州に再び教育旅行を「ふっこうセミナー」開催

九州観光推進機構

2016年4月に発生した熊本地震からの風評被害の払拭や九州向けの修学旅行の早期回復を目指す「九州教育旅行ふっこうセミナー」が2月27日、熊本県阿蘇市の阿蘇プラザホテルで開催された。九州の観光関係者が関東、中部、関西、中四国地区の旅行会社の教育旅行担当者に、熊本の現在の復興状況や九州地方の観光施設、食、体験学習プランなどをPRした。九州観光推進機構が主催。観光関係者、旅行会社、メディア関係者など約140人が参加した。

熊本、阿蘇以外は回復

第1部のセミナーの冒頭、主催者を代表してあいさつした九州観光推進機構の髙橋誠専務理事は「熊本地震で九州地区の修学旅行のマーケットは壊滅的な打撃を受けた。地震後の支援には感謝している」と述べ、「九州は安全だと継続して発信しているが、風評被害の影響がいまだにある。旅行会社の人に実際に見てもらい、九州が回復していることを学校関係者に伝えてほしい」と強く訴えた。

続いて、熊本県観光連盟の河野靖専務理事が「熊本地震後の復旧情報の発信や熊本ふっこう割の実施で一般の観光客は戻ったが、修学旅行については数校が訪れるだけで戻っていない。阿蘇以外の多くは通常通りに営業し、アクセスも改善している。被災地は復興途上だが、九州を学びの場として復興ツアーを組み盛り上げてほしい」と語った。

また、九州の教育旅行の現状について、「地域活性化伝道師」として活動している内閣官房地方創生推進事務局の伊原和彦氏が「九州の修学旅行の回復率は、風評被害の影響があり、地震前の約80%と厳しい状況にある。熊本は阿蘇以外は回復しており、地震の影響はない。旅行会社の皆さんは、目で見て感じた熊本の現状を持ち帰ってセールスに役立ててほしい」と理解を求めた。

このほか、熊本県観光連盟からラフティング体験学習や「水俣病」で学ぶ環境学習、有明海で漁業体験など熊本県の最新の体験型プログラムなどの紹介、セミナーとして大社中学校（兵庫県西宮市）の白井弘一校長が熊本地震から1カ月後に長崎に修学旅行を実施した事例を発表した。

第2部の相談会では各県の教育旅行担当者が県ごとにブースを設け、旅行会社の担当者に学習、受け入れ施設などの素材を売り込んだ。

第3部の意見交換会では、阿蘇の現状を阿蘇市の佐藤義興市長が「地震以前、阿蘇は例年約5万人もの学生を迎えて、学んでもらっていた。しかし、地震で交通網が遮断されて受け入れが厳しい状況となった。こうしたなか、阿蘇の噴火警戒レベルが引き下げられ希望が見えてきた。再び学生を阿蘇の大地に呼びたい」と述べた。

また、セミナー会場となった阿蘇プラザホテルの稲吉淳一社長は「現状は危機的状況にある。まだ先は見えていない状況であるが、地域、九州、旅行会社が連携して修学旅行を戻していきたい」と語った。

阿蘇に訪れる修学旅行生は、地震後は1千人弱と激減している。熊本県では、地震現場や写真、映像を残し被災地を伝える震災プログラムの作成や防災教育の発信などを今後行う予定。地域と連携し修学旅行を地震前の水準まで戻すことを目指す。

同セミナーに参加した旅行会社の教育旅行担当者は、セミナーの開催前に草千里や阿蘇火山博物館など阿蘇の観光スポットを視察し、阿蘇の被害状況や現状を確認した。セミナーの翌日からは、熊本市内や鹿児島、長崎の観光施設などを視察した。

セミナーに約140人が参加

相談会で素材を売り込む各県の教育旅行担当者

地震の傷跡が残る熊本城

長野県　来校数は11%増加

学習旅行実態調査まとめ

長野県は、2015年度の学習旅行実態調査の結果をまとめ、発表した。県外からの学習旅行の来訪学校数および延べ児童・生徒数は前年度比11・4%増の4378校、8・3%増の85万1876人となった。

宿泊地別延べ児童・生徒数の合計では「菅平高原」が1位。2位が「志賀高原・北志賀高原」だった。

学校の所在地別では「東京都」がトップ。目的別延べ児童・生徒数では「スキー」「体験・見学」「スキー以外のスポーツ」の順となっている。

来訪学校数および延べ児童・生徒数の状況　（単位：校、人、%）

区分	来訪学校数					延べ児童・生徒数				
	2014年度	2015年度	増減	前年度比	構成比	2014年度	2015年度	増減	前年度比	構成比
小学校	807	887	80	9.9	20.3	152,862	136,337	△16,525	△10.8	16.0
中学校	1,583	1,615	32	2.0	36.9	325,081	314,963	△10,118	△3.1	37.0
高等学校	1,540	1,876	336	21.8	42.8	308,529	400,576	92,047	29.8	47.0
全体	3,930	4,378	448	11.4	100.0%	786,472	851,876	65,404	8.3	100.0

宿泊地の状況（上位3位）　（単位：人、%）

区分	1位			2位			3位		
	宿泊地	延べ児童・生徒数	前年度比	宿泊地	延べ児童・生徒数	前年度比	宿泊地	延べ児童・生徒数	前年度比
小学校	その他の上小地事管内	30,619	29.4	志賀高原・北志賀高原	19,825	△5.3	その他の佐久地事管内	15,323	15.1
中学校	菅平高原	84,480	161.9	志賀高原・北志賀高原	58,095	△30.5	その他の佐久地事管内	18,113	△13.5
高等学校	菅平高原	150,192	193.2	志賀高原・北志賀高原	96,466	△13.1	その他の佐久地事管内	25,104	1.5
全体	菅平高原	240,958	170.2	志賀高原・北志賀高原	174,386	△19.1	その他の佐久地事管内	58,540	△0.7

―近畿日本ツーリストの教育旅行―

学習指導要領でも個性を尊重し生きる力を育むことが目標として掲げられている今日、教育旅行においてもよりきめ細かなプランニングが求められています。近畿日本ツーリストは、業界屈指の組織力と情報・企画力で安心安全のうえに、学校の個性が発揮できる新しい教育旅行をご提案いたします。

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト株式会社